

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 友丘教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日 ～ 2026年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との密な関係性と継続的な連携から生まれる、個性性の高い支援	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や連絡ツールを活用し、日々の様子や小さな変化も共有している ・面談やモニタリングを通して、保護者の不安や意向を丁寧に汲み取ることを大切にしている ・家庭での様子と事業所での様子をすり合わせ、支援内容に反映している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声を定期的に振り返り、支援計画や対応方法の見直しにつなげる
2	職員間の連携力と、チームとして支援を考える体制	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のミーティングを通して、支援の方向性を共有している ・困り感のある場面については、複数職員で意見を出し合い対応を検討している ・教室間での情報交換を行い、支援の幅を広げている 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討の時間をより計画的に確保する
3	研修体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・複数教室合同での研修や情報共有により、職員のスキル向上を図っている ・経験年数や役割に応じた学びの機会を意識的に設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を日々の支援にどう活かすかを振り返る機会を増やす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や関係機関との連携が限定的である点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務が中心となり、外部との関係づくりに十分な時間を確保しにくい ・教室単位での支援が主となり、外部との接点が少なくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や関係機関とのつながりを整理し、必要に応じて活用できる体制をつくる
2	地域資源や交流機会に関する情報把握が十分でない点	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援や教室運営を優先しており、地域で行われている行事や交流機会について把握する機会が限られている ・保護者会や地域イベントについても、実施状況や参加ニーズを十分に整理できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関で行われている取組について、必要に応じて情報収集を行う
3	日常的な支援内容や専門的な関わりが、外部に伝わりにくい点	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の個別支援や関わりの工夫、支援の意図などは、外部に向けて発信する機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に配慮しながら、支援の工夫や関わりの視点を共有する方法を検討する